

基本政策Ⅱ 学ぶ意欲を育て、「生きる力」を伸ばす

政策 目標

子どもたちの学ぶ意欲を高め、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな心身」をバランスよく育み、将来の予測が難しい社会を生き抜くために必要な「生きる力」を確実に身につけることをめざします。

主な課題

- ①子どもたちが自ら学び、課題を見つけ、主体的に判断し、課題解決のために他者と協力する資質や能力を伸ばしていくため、学校、地域、家庭が連携した取組を進め、「確かな学力」を育成する必要があります。また、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくことが求められています。
- ②道徳教育の一環として、「心のバリアフリー」に関する理解を深めるための指導等を継続していくとともに、「かわさきパラムーブメント」がめざす「誰もが自分らしく暮らし、自己実現をめざせる地域づくり」の実現に向け、多様性を尊重する社会の担い手を育む教育を、引き続き、計画的・系統的に行っていく必要があります。
- ③現代的な健康課題等に対応し、子どもの心身の健康の保持・増進を図るとともに、児童生徒の健全な身体を育むため、小中9年間を通じた体系的・計画的な食育を引き続き推進していく必要があります。
- ④「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現のため、様々な形で蓄積されていくスタディ・ログを効果的に活用していくことが求められています。また、GIGAスクール構想で整備されたICT環境を活かして、自宅等でICT端末による学習を継続することで、子どもたちの学習を保障することが求められています。
- ⑤各学校の特色を活かした多様な学習ニーズに対応する教育活動を実施し、魅力ある市立高等学校づくりに向けた取組を推進していく必要があります。

主な取組成果

- ①市学習状況調査について、令和6年4月に市立小中学校及び市立聾学校の6学年（小4～中3）63,067人に実施しました。児童生徒・保護者に対しては、個人票を7月に配布し、学習状況を伝え、GIGA端末との連携も含め学習改善に活用できるよう支援しました。また、調査結果を分析、研究し、明らかとなった課題と課題に対する授業改善の手立てを担当者説明会などで共有し、各学校の取組を支援しました。
- ②人権尊重教育研究推進校3校、実践推進校2校を定め、学校での人権尊重教育推進の取組を継続したことで、具体的な人権尊重の視点に立った指導や支援の実践を通して人権尊重の学校づくりを進めることができました。また、各学校の多文化共生教育の充実に向けた情報交換の実施については、「学校でできる多文化ふれあい交流会」をオンラインで開催し、各学校の取組状況についての情報交換を行いました。
- ③川崎らしい特色ある「健康給食」の推進については、「かわさきそだち」の野菜を使用した献立を提供するなど、「健康給食」をコンセプトとした学校給食を推進しました。また、小中9年間にわたる体系的・計画的な食育の推進について、栄養教諭を中核としたネットワークを活性化し、中学校区を拠点として小中学校をグループ化し、小・中学校、給食センター間の連携を図りました。さらに、市制100周年記念の献立として、市内産多摩川梨を使った「『かわさきそだち』のなしゼリー」の提供をきっかけとして、学校給食におけるSDGsの取組について児童生徒が主体的に考える機会を創出しました。
- ④かわさきGIGAスクール構想ステップ3の「個別最適な学びと協働的な学びの一体的に充実」した授業改善に向け、推進協力校10校と研究推進校1校に複数回指導主事を派遣して、研究推進の支援を行いました。研究の成果は、授業公開等を通して全市に横展開しました。教育委員会事務局でデータ利活用研究会議を定期的開催しました。また、教育データの利活用を進めるために、新規に5つのダッシュボードを構築し、データを活用した支援の実施に向けてGIGAスクール構想を推進する教師（GSL）に研修を行いました。
- ⑤「市立高等学校改革推進計画第2次計画」に基づき、令和6年度から橘高等学校定時制課程で実施している授業開始前の個別学習支援において、特別支援教育サポーターの派遣回数を増加し、学習ニーズに応じた学びの充実を図ったほか、第2次計画に位置付けられた各取組の実施状況等の検証及び課題整理を行い、報告書として取りまとめました。また、地域連携を主体とした授業を全校で取り組み、令和6年度は橘高等学校で本市の「かわさきプラスチック循環プロジェクト」への参加等を新たに実施しました。

教育改革推進会議における意見内容

- ①これからの教育では、学ぶ意欲や「生きる力」を伸ばすためには、個人（個性）や多様性の集まりとしての全体でなければならない。児童生徒が主体となる（主体となって学びを進める）ために、教職員の意識の転換を積極的に図ってほしい。
- ①参考指標を見ると、「授業の理解度」「授業の好感度」のスコアは低下する一方で、「授業の有用度」は上昇している。G I G Aスクール構想をはじめとした授業改善の取組が、児童生徒にとって「授業が日常生活や将来に役立つ」という実感をより一層高めているのではないか。その中で、理解度を高める工夫を検討いただきたい。
- ④データ利活用に向けて組織的な取組がなされていることは非常に有意義な成果だと思う。他方で、データ利活用を巡っては先生方の間でも様々な考えがあり、試行錯誤もあると思うので、関係者の間でどのような課題を議論し、どのような漸次的な改善に取り組まれているかといったところも見えてくるとよい。

今後の取組の方向性

- ①市学習状況調査について、同一学年の経年比較や同一母集団の経年比較によって、よりきめ細かく一人ひとりの学習状況を把握し、その結果をG I G A端末と連携することによって、各学校の授業改善、児童生徒の学習改善につなげていきます。
- ②人権尊重教育研究推進校・実践推進校の研究支援及び教職員やP T Aを対象とした研修の実施については、内容の充実を図りながら、引き続き実施していきます。また、多文化共生ふれあい事業については、文化体験のバリエーションを増やししながら継続して実施していきます。
- ③川崎らしい特色ある「健康給食」の推進については、引き続き「とにかく美味しい学校給食」「自然と健康になる学校給食」「みんなが大好きな学校給食」をコンセプトとし、小中9年間にわたる食育を推進します。
- ④国のリーディングD Xスクール事業を活用して更にG I G Aスクール構想の推進を行うとともに、これまで以上に推進に当たって課題感を持っている学校や教員への支援を強化していきます。また、教育データの利活用について、研修機会を増やし、学習e ポータルやM E X C B Tの活用について周知していきます。
- ⑤「市立高等学校改革推進計画第2次計画」に基づく取組について、令和6年度に整理した課題を踏まえ、社会状況の変化や生徒の多様な学習ニーズに合わせた高等学校づくりの検討を進めます。また、多様な主体との協働に向けて、関係機関等と連携を図り、キャリア教育や探究的な学習の充実に向けた体制を引き続き整えていきます。

参考指標								
指標名	指標の説明		実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(R7年度)
授業の理解度	「授業がわかる、どちらかといえばわかる」と回答した児童生徒の割合 【出典：川崎市学習状況調査】 小5：国語、算数、理科、社会の平均 中2：国語、数学、理科、社会、英語の平均	小5	90.1% (R3(2021)年度)	89.3%	84.6%	85.3%	-	94.0% 以上
		中2	79.6% (R3(2021)年度)	79.0%	66.8%	66.0%	-	82.0% 以上
授業の好感度	「学習がすきだ、どちらかといえばすき」と回答した児童生徒の割合 【出典：川崎市学習状況調査】 小5：国語、算数、理科、社会、総合の平均 中2：国語、数学、理科、社会、英語の平均	小5	75.4% (R3(2021)年度)	73.4%	70.1%	68.1%	-	81.0% 以上
		中2	64.8% (R3(2021)年度)	61.8%	59.5%	58.4%	-	67.0% 以上
授業の有用度	「授業で学んだことが、生活の中で役に立っていると思う、どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合(～令和4年度) 「授業で学んだことは、将来、社会に出たときに、役に立つ、どちらかといえば役に立つ」と回答した児童生徒の割合(令和5年度～) 【出典：川崎市学習状況調査】	小5	92.4% (R3(2021)年度)	91.7%	90.9%	93.4%	-	97.0% 以上
		中2	81.0% (R3(2021)年度)	79.8%	82.0%	85.2%	-	85.0% 以上
英語によるコミュニケーションへの積極性	「道で外国人に英語で話しかけられたとき、何とか英語で話そうとする」と回答した生徒の割合 【出典：川崎市学習状況調査】	中2	81.8% (R3(2021)年度)	84.5%	80.2%	79.2%	-	85.0% 以上
規範意識	「人が困っているときは、進んで助けている、どちらかといえば助けている」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	90.5% (R3(2021)年度)	91.5%	93.5%	93.5%	-	91.0% 以上
		中3	90.4% (R3(2021)年度)	89.7%	90.5%	92.1%	-	91.0% 以上
子どもの体力の状況	体力テストの結果(神奈川県との平均値(体力合計点)を100とした際の本市の割合) 【出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査】	小5(男)	99.9% (R3(2021)年度)	100.37%	100.89%	99.50%	-	102% 以上
		小5(女)	99.8% (R3(2021)年度)	99.98%	100.00%	100.02%	-	102% 以上
		中2(男)	94.5% (R3(2021)年度)	95.76%	96.12%	98.67%	-	100% 以上
		中2(女)	96.3% (R3(2021)年度)	97.01%	98.15%	100.84%	-	100% 以上
学校給食の残食率(小学校) 【第3期から設定】	残食率の高さや栄養の観点から重点5項目とする品目の残食率 【出典：川崎市教育委員会調べ】 小学校(白米、変わり飯、卵類、豆製品、藻類)	白米	6.1% (R2(2020)年度)	5.28%	6.02%	6.98%	-	5.46% 以下
		変わり飯	7.0% (R2(2020)年度)	5.37%	8.29%	8.19%	-	5.41% 以下
		卵類	7.3% (R2(2020)年度)	6.66%	5.76%	7.53%	-	4.50% 以下
		豆製品	7.0% (R2(2020)年度)	6.43%	7.63%	7.44%	-	4.95% 以下
		藻類	7.6% (R2(2020)年度)	6.16%	6.38%	8.05%	-	5.04% 以下
学校給食の残食率(中学校) 【第3期から設定】	残食率の高さや栄養の観点から重点5項目とする品目の残食率 【出典：川崎市教育委員会調べ】 中学校(白米、変わり飯、豆類、野菜類、藻類)	白米	21.2% (R2(2020)年度)	18.68%	16.93%	14.72%	-	12.3% 以下
		変わり飯	13.3% (R2(2020)年度)	12.40%	14.52%	11.11%	-	9.24% 以下
		豆類	15.1% (R2(2020)年度)	15.44%	13.93%	11.82%	-	11.29% 以下
		野菜類	15.9% (R2(2020)年度)	14.03%	12.92%	11.74%	-	10.5% 以下
		藻類	17.2% (R2(2020)年度)	16.45%	14.74%	13.6%	-	11.08% 以下